

事務事業名	老朽管更新事業			担当	水道部 水道課 工務係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-8168	
施策名	01	水道事業の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 年度～）		
予算科目	12.水道事業会計	4.資本的支出	1.建設改良費	1.配水設備改良費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（平成11年度～平成23年度）		
事業概要	昭和40年代前半に埋設された石綿セメント管は老朽化が著しく、漏水事故等が多発している。さらにこの管は地震等による振動にもろく、平成7年1月に発生した阪神淡路大震災のライフラインの崩壊に鑑み、平成11年より国庫補助事業としてスタートした。本事業（石綿セメント管を鋼鉄管に代替する）を実施することにより漏水防止、地震等による管の折損防止さらには有収率アップと安全で安定した水が供給できることになる。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 22年度実績 老朽管更新は次の手順で行う。 1)更新基本計画に基づいて、年度の区域を決定 2)国に対して事業要望 3)当年度の事業費決定（補助率は4分の1） 4)施工 5)通水作業  23年度計画 平成22年度で事業完了	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア	配水管更新延長	m	5,884	1,774	1,971	1,023	
	イ							
	ウ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 老朽化した水道管（石綿セメント管）	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア	老朽化した配水管延長	m	9,755	7,981	6,355	5,332	
	イ							
	ウ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 水道管の老朽化による漏水事故を防ぐ。 地震等による配水管の破損を防ぐ。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア	漏水事故件数（老朽化による）	件	6	3	1	0	
	イ	改良率	%	79.8	83.5	87.0	90.1	
	ウ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 清浄でおいしく、豊富で安全な水を安定供給する。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア	給水人口	人	61,452	68,841	69,188	67,751	
	イ	普及率	%	92.0	82.6	83.4	82.0	
	ウ	有収率	%	84.9	85.9	90.0	88.7	

(2) 総事業費の推移		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	33,000	12,000	11,700	2,100	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	60,000	0	0	0	0
		その他	千円	23,332	45,303	35,655	6,416	0
		一般財源	千円	0	0	0	0	0
	事業費計(A)		千円	116,332	57,303	47,355	8,516	0
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	2	2	0
		延べ業務時間	時間	312	208	208	208	0
		人件費計(B)	千円	1,307	869	844	888	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	117,639	58,172	48,199	9,404	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	老朽管の漏水が多発し苦慮していたが、平成11年度に当事業の国庫補助が採択されたことにより計画的に実施している。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	漏水事故自体は減少している。 区画整理事業施行区域以外は完了した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 漏水を防止し、有収率を向上させることは水道事業の経費削減が図られるばかりでなく、利用者への安定した水の供給も図られる。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 利用者である市民に安定した水を供給することは、市の役割である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市内全域にある老朽管を計画的に更新するものであり、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 老朽管を更新することにより、清浄でおいしく、豊富で安全な水を安定供給できる。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 廃止した場合、漏水被害が増大し、地震等が発生した場合の管の破損による甚大な被害を招くことになる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 工事については、浅層埋設及び再生材の利用等によりコスト削減を図っている。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の人数で実施しているため削減の余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 利用者が水道使用料により公平な負担をしている。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続 区画整理事業施工区域を除き石綿管の更新が完了したため、事業を廃止する。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							